

■■■ 防災推進センターシンポジウムを開催しました ■■■

令和4年1月22日（土）に、高知大学防災推進センターシンポジウム「災害からの事前の避難に必要な情報とは？」をオンラインにより開催し、学内外より74名が参加しました。

自然災害から命を守る対応の一つとして、災害が発生する前の「事前の避難」は非常に重要な手段です。そのため政府は、特に風水害に対して事前に様々な災害情報を発出し、市町村長の避難指示の発令を支援すると共に、住民の自主的な避難を促そうとしています。なかなか住民が避難をしない事例が多く問題となっています。このような問題を解決し、事前の災害情報が住民の避難を促すようになるためにはどうすれば良いのかを探りました。

櫻井学長による開会挨拶の後、笹原防災推進センター長による趣旨説明が行われ、第一部では、災害情報に関する研究として佐々浩司教授による「気象レーダー情報の活用」、大槻知史准教授による「脳のクセを乗り越えろ！『避難』を後押しする情報提供」、防災行政からの伝達として高知県防災砂防課藤村直樹課長による「土砂災害警戒情報の運用と伝達」、香美市建設課井上雅之課長による「災害発生前に『避難指示』を出すために必要な情報とは？」を、講演形式で紹介しました。

第二部では、国土交通省高知河川国道事務所 多田直人所長から「流域治水における住民の避難を促すための災害情報」の基調講演があり、引き続き全講演者による住民に事前の避難を促すための災害発生情報の在り方についてパネルディスカッションが行われました。

安全に避難するためには行政、住民、地域コミュニティが力を合わせることで、行政側の説得力のある避難情報のためには土砂災害等の予測精度の向上が必要であること、また住民は日頃から災害情報を収集するスキルをあげ、住民自らが考え続けることが必要であることが議論の結果示されました。笹原センター長からは土木工学に携わる者として災害発生予測の精度の向上の重要性を再認識し、今後とも関係機関と連携した活動を行っていきたいと述べられました。

最後に本家研究・評価・医療担当理事の閉会挨拶で締めくくられました。

なお、本シンポジウムは、一般社団法人国立大学協会との共催により国立大学フェスタ2021の一環として開催しました。



櫻井学長による開会の挨拶



本家理事による閉会の挨拶



パネルディスカッション